

適正利用・エコツーリズム検討会議からの報告

1. 委員の離任新任について

離任：中川元委員（要領の年齢制限で退任）

庄子康委員、高橋満彦委員（専門分野の重複、優先分野変更で退任）

新任：石黒侑介委員（観光地経営論の専門家として新任）

船木大資委員（遺産研究の専門家として新任）

松田光輝委員（エコツーリズムマネジメントの専門家として新任）

2 令和6年度適正利用・エコツーリズム検討会議の議論

第1回会議を令和6年6月21日（金）に開催しました。主な議事内容及び合意事項は下記のとおりです。

① 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の進捗状況

- ・現在、知床五湖冬期利用促進事業検討部会及びカムイワッカ部会で提案のあった事業が承認を受けている。詳細は以降の議題で報告。

② 個別部会等からの報告

(1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業（知床斜里町観光協会）

- ・コロナ以降利用者が回復。1日あたりの上限人数（150人）を遵守し、静寂性を感じられるツアーを維持している。なお回遊コースは現場で決定できるように変更した。

(2) 知床五湖地区における取組み（環境省）

- ・知床五湖1湖の外來スイレン除去事業に着手した。今年度は関係者の協働による作業を6日間実施した。当面の目標は1湖におけるスイレンの分布を縮小させ、在来植生を保全するとともに湖面に周囲の自然が映り込む景観を維持することである。

(3) カムイワッカ地区における取組み（斜里町）

- ・試行4年目のカムイワッカ湯の滝利活用検討事業では、経営の安定のために料金（協力金）を値上げした。試行は今年度までで2025年度から本格実施だが、運営の安定のために林野庁には長期の契約の検討を依頼した。

③ 関係機関からの報告

(1) ホロベツ園地の再整備事業について（斜里町）

- ・地域の合意が得られず再整備を延期したが、地域とのオープンな議論をするための協議の場（部会設置）を設置する方針を報告。

(2) 知床アクティビティリスク管理体制検討協議会の検討状況（斜里町）

- ・リスク低減・マネジメントをするための体制を斜里町が2023年度に取りまとめた。知床斜里町観光協会、（一社）知床しゃり、斜里町が事務局を担い、今年度は小型旅客船等の安全対策や情報発信・広報、リスク調査に先行的に着手する。
- ・斜里町の取組から知床半島全体のリスクマネジメントに拡張できると望ましい。

(3) 第8期羅臼町総合計画について（羅臼町）

- ・羅臼町総合計画の中で観光分野の施策に言及している箇所を報告。

(4) 国立公園指定60周年・世界遺産登録20周年記念事業について（環境省ほか）

- ・国立公園指定 60 周年・世界遺産登録 20 周年記念事業について報告。
- ・知床斜里町観光協会より、知床五湖におけるナイトツアーの企画について提案があり、環境影響は過小なので承認された。ライトの使用による野生動物への影響回避、駐車場から高架木道へ向かう区間でのヒグマ対策を施すように附記された。

④知床エコツーリズム戦略の見直しについて

- ・環境省が知床エコツーリズム戦略の見直しとして、インタープリテーション全体計画を策定することを提案した。インタープリテーション全体計画と知床エコツーリズム戦略の見直しについては基本的に環境省が主導の下、地域の意見を集約して進める。見直しの内容は以下のとおり。

<見直しの方向性>

- ・地域の魅力や価値を来訪者に伝えることを目的に策定される「インタープリテーション全体計画」の構成要素を念頭に、知床の価値や来訪者へのメッセージ、望まれる体験を戦略に書き込む。
- ・斜里町で実施中のアクティビティリスク管理と整合性を図った上で、リスク管理について書き込む。
- ・地区毎の自然環境と利用施設の状況等を踏まえたゾーニングを規定。利用地区や利用形態ごとの配慮事項は遺産管理計画に準拠し、適正な利用としての最適化を図っていく。

⑤知床岬地区における携帯電話基地局整備について

- ・事務局より 6 月 7 日に科学委員会を開催し、知床岬地区における携帯電話基地局整備について議論したことを報告。
- ・知床岬をはじめとする知床半島先端部地域は特に質の高い自然を有する場所で、厳正に保護すべきとの反対意見があった。一方で現在の計画で整備を進めるのがよいのではないかという意見もあった。
- ・今後同様のケースがあった場合には、特定の関係者だけで決めるのではなく、知床の自然環境の利用と保全に関わる多様な関係者が集まる場で、早い段階からオープンな議論をしていくことが重要である。

3. 今後の会議運営

第 2 回適正利用・エコツーリズム検討会議を令和 7 年 1 月に開催予定（定例）

以上